

市町村や市民団体の農業体験制度

～ 農業から広がる新たな交流～

中面で紹介した農業体験制度について、制度の概要や問い合わせ先などを記載しました。いずれの制度も、農作業をしたい方と労働力が不足している農家の方をつなげる仕組みですので、興味のある方は各問い合わせ先へお尋ねください。また、詳細は各ホームページ等をご覧ください。

新潟市農業サポーター (ボランティア)

新潟市

農作業したい、園芸や野菜づくりを学びたい、健康づくりをしたいとお考えの方から「農業サポーター」として登録していただき、農業に理解を持ってほしい、労働力が不足しているという農家の農作業をボランティアで手伝ってもらう制度です。

- 制度の流れ
- 1 サポーターに登録
 - 2 事務局で受入農家調整
 - 3 受入農家決定
 - 4 作業実施



登録対象者 / 新潟市在住者に限定
 登録時期 / 2月頃募集(今年度は終了)
 農作業の例 / 野菜の収穫、枝豆の選別、花苗出荷、田植え作業など
 申込方法 / 下記事務局へFAX、メール等

新潟市農業サポーター事務局(新潟市役所 食と花の推進課内)

TEL 025-226-1798 FAX 025-230-0423
 電子メール ●shokuhana@city.niigata.lg.jp
 ホームページ ●http://www.city.niigata.jp/info/shoku_hana/supporter/supporter-kiroku.htm

長岡市「大地まるごと学」

長岡市

近年、農家では人手不足が深刻化している反面、農村や農業に興味を持つ人も多くなってきていることを背景に、「農作業を体験したい」という方と「農作業を手伝ってほしい」という農家の方をつなげるために始められた制度です。

- 制度の流れ
- 1 ホームページへアクセス
 - 2 作業内容を確認して申込み(上・中・初級コースから選択)
 - 3 事務局と電話面接
 - 4 受入農家と電話面接
 - 5 受入農家決定
 - 6 作業実施



対象者 / 農業に興味のある方ならどなたでもOK(市外の方も)
 申込時期 / 随時
 農作業の例 / ネギの皮むき、野菜の調整、盆花の栽培・出荷、稲刈りなど
 申込方法 / 作業内容を確認し、FAXまたはホームページにて申込み

大地まるごと学運営協議会事務局(長岡市役所 農政課内)

TEL 0258-39-2223 FAX 0258-39-2284
 電子メール ●nousei@city.nagaoka.lg.jp
 ホームページ ●http://www.nagaoka-volaba.jp/

縁農村

市民団体

縁農村は、生産者と消費者の交流により、安全・安心な食と農業の実現を目指す市民団体です。主に新潟市近郊において、農家の支援活動として、農家からの依頼に応じ、様々な農作業の手伝いを行っています。

- 制度の流れ
- 1 縁農村の村民(会員:年会費1,000円)になる
 - 2 登録農家が、村民にメールや電話で援農(お手伝い)を依頼
 - 3 村民から、都合のいい日・時間を農家に連絡
 - 4 作業実施

*村民にならなくても参加は可能ですので、事務局にお問い合わせください。

対象者 / 農業に興味のある方ならどなたでもOK
 登録時期 / 随時
 農作業の例 / 作付け準備、草取り、収穫など
 申込方法 / 下記事務局へ電話等

縁農村事務局

TEL 090-5308-9928(柳・各種問合せ)
 TEL 090-4730-2817(白神・入会申込)
 電子メール ●kazuo@kzyr.net
 ホームページ ●http://www.ennoumura.org/

新潟くらしのポータルサイト **nii GET** もご活用ください
 ニイ ゲット
<http://www.niiget.jp>

- 新潟トピックス(毎日更新中 土日祝除く)
新潟県内の社会・経済情報を見ることができます
- 合同企業説明会スケジュール
県内外で開催される合同企業説明会の日程が確認できます
- 教えて先輩!
新潟にU・Iターンされた方々の体験を紹介します
- 新潟で夢にチャレンジ
無限の可能性のある新潟の魅力をさまざまな角度から紹介します

お申し込み・お問い合わせ
新潟県県民生活課
 〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
 TEL025-280-5112(直通)

新潟暮らし情報紙

第7号 2009年8月発行

新潟生活

御希望の方に無料で郵送しています。

発行 / 新潟県県民生活課 〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 TEL025-280-5112(直通)

niigata seikatsu

目次 [教えて先輩!] 新潟の良いもの、心に響くように伝えたい!
 旅館は、地域のプレゼンに最適の場です。
 【特集】農を取り入れたライフスタイル
 市町村や市民団体の農業体験制度
 ~農業から広がる新たな交流~

申込 無料 FREE

教えて先輩!
vol.11

新潟の良いもの、心に響くように伝えたい!

Iターンしたきっかけ

新潟に就職したのは、心から「素敵だな」と感じる人に会えたのが、きっかけですね。大学生のときにNPO法人の活動に参加したんですが、その代表の方に衝撃を受けました。「こんなふうに向かっていると生きていく人があるんだ」と。また今の会社の人事の方も、就職活動中のやりとりの中で、自分を学生としてでなく個人として見てくれているな、と感じました。東京の企業からも内定をもらっていましたが、最終的に第一印刷所に就職することを決めました。

現在住んでいる地域の魅力

新潟には「財」が多いと思います。農業や風土であったり、「リゅーとびあ」といった施設や、「アース・セレブレーション」とか「Noism」といった活動もあって、それを動かしていこうと一生懸命になっている人がいる。でも、そういう良いものが知られていな

い。そういうのを発信していける人になりたいと思いますし、それをどう心に響くように伝えるかが私のテーマです。

若い人へのメッセージ

考えて考えて、悩むことって、いいことだと思うんです。新潟で働くのであれば、そのためのポジティブな理由を見つけてほしいです。地元だからとか近いからとか、そういうのもあるんですけど、その裏側には何か新潟を選ぶポジティブな理由があると思うんですよね。ネガティブな理由は逃げるときの口実に

なっちゃったりしますが、ポジティブな理由は目標になるし。ぜひ新潟のここがいいというのを見つけてほしいと思います。



吉田有希さん(23歳)
 (株)第一印刷所 マルチメディア課

地域
新潟市
中央区

群馬県出身。地元の高校を卒業後、新潟大学に入学。たくさんの人との出会いから新潟での就職を決意。株式会社第一印刷所で働きながら、「新潟の良いもの」を発信し続けている。

教えて先輩!
vol.12

旅館は、地域のプレゼンに最適の場です。

Uターンしたきっかけ

家業が温泉旅館ですが、もっと広い世界を見てみたいと、アメリカの大学に留学しました。3年生に進級するときに、周囲から「実家が商売をやっているのだから、ビジネスを学んだら」と言われて、経営学を専攻しました。これがやってみると面白。マネジメントについてケース・スタディやコンサルティング、企画書を書いて、毎日プレゼンをします。こうした中で早く現場で仕事をたくさん、卒業後、家業である旅館業というフィールドに飛び込みました。

現在住んでいる地域の魅力

僕は、働くことはイコール遊ぶことだと思ってるんですね。好きなことをやっていられるなら、本当に自分らしくいられます。それくらいの考えで楽しんでやっていいと思います。都会の企業だとそういう余裕が残っていないと思うけど、新潟の企業は、まだそう

いうことができる環境が残ってるんじゃないかな。「田舎はやることがない」と言う人もいますが、とんでもない。お客様に「ありがとう」と言ってもらおうとしたら、やらなきゃいけないことは山ほどあります。

若い人へのメッセージ

まずは目標を持ってほしい。そこから逆算して、自分に足りないものを勉強して身につける。何をやっていても何のために働くのかを考えてほしい。たとえば実家が農家で、将来農家レストランをやりたいなら、じゃあ割烹で修業しようとか、食材を扱う会社で働

うとか。目先のライフスタイルを考えるのではなく、その先の人生観を考えてそれに向かって努力してほしいですね。



井口智裕さん(36歳)
 ●(株)いせん 代表取締役

地域
湯沢町

湯沢町で代々旅館業を営む家に生まれる。高校卒業後、アメリカの大学に留学。経営学を専攻し、卒業後、家業の温泉旅館を継ぐ。「旅館業は平和産業。世界中に旅館を作りたい」と、日々奔走している。

Agriculture × Life style

農を取り入れたライフスタイル



近年、農業、農村に興味を持つ人が増えています。安全・安心な食べ物を口にしたい、健康づくりをしたい、あるいは農業のプロフェッショナルを目指したいなど、理由は様々ですが、ライフスタイルに農業を取り入れる方が増えています。

新潟市、長岡市では100人以上の方が農業ボランティアとして、休日などを利用して、農家のお手伝いをしています。また、市民団体、関係NPOでも農業体験、ボランティアをすることができます。農のある新潟県で、農業を取り入れた暮らしを始めてみませんか。

市民団体 縁農村

土にさわっているだけでも、リフレッシュできますね

縁農村の取り組みについて教えてください
縁農村は、「生産者と消費者の温かな交流による、安全・安心な食システムづくり」を目指して活動している団体です。農や食、環境に興味のある人約60名が現在、会員になっていて、登録農家からの依頼により農作業のお手伝いをし、お礼として農作物などをいただく「援農」という活動に取り組んでいます。登録農家は、米、野菜、養鶏、植物栽培などさまざまですが、生産者と消費者の新しい関係といえます。



活動に参加しての感想は?
初めて活動に参加したのは大学生のときですね。「なんて楽しい世界なんだろう」とすごく興奮して、もう7年も続いています。農業という、つらいとか大変というイメージがあったのですが、みなさんがキラキラしていて活力に満ちています。私も子供のころから植物の世話や庭いじりが好きだったので、同じように農や食に興味を持っている者どうして語り合うことができ、とても楽しい時間を過ごしています。

農作業の魅力は何でしょう?
土にさわることだけでも楽しいと思います。先日田んぼの草取りに参加したんですが、リフレッシュできてとても気持ちいいですね。仕事をしているとどうしても疲れがたまってしまいますけど、農作業をすることで普段使っていない体の筋肉が目覚める感じで、疲れが抜けていくのがとても心地よいです。



写真左が片野さん

片野奈緒美さん

◎新潟大学在学中から、縁農村の活動に参加。卒業後、県内スーパーの鮮魚部門で働きながら、「食育」の活動に取り組んでいる。



新潟市農業サポーター

バランスの取れたライフスタイルが気に入っています

農業サポーターをはじめたきっかけは
30歳を過ぎて自分のライフプランを考えた時、デスクワークだけの毎日でもいいのかという疑問を抱き始めました。自然とつながりたい、農業に関わりたいと思ったのがきっかけです。

活動を始めでの感想を教えてください
農業は原因と結果がはっきりしていておもしろい。手間をかければそれだけおいしいものが出来るし、失敗するのも必ず原因があり、観察力、洞察力が磨かれます。また、農家の方とのコミュニケーションも魅力の一つです。「農」という共通のフィールドを通じて、いろんな方と触れ合うことができ、毎回、どんな話が飛び交うか楽しみです。



将来的なビジョンはありますか
将来的にもずっと農業とは近い距離にいたいですね。自分の子どもたちにも、とれたてのおいしい野菜を通じて、農業に関心を持ってもらいたいです。サポーターになって、ますます新潟のことが好きになりました。出版社に勤めているので、もっと新潟の農業と食の魅力を発信していきたいと思っています。

Uターンを考えている若者へメッセージ
東京の方が暮らしやすいという人もいるかもしれませんが、新潟は海あり、山あり、食べものおいしいというアイデンティティがある。そのおいしい食べ物づくりに関わることができ、いい経験をさせてもらっています。平日のデスクワークと週末の農業というバランスのとれた生活も気に入っています。農業との距離感、付き合い方を考えた時に、こういった選択肢がある新潟もいいんじゃないかなと思います。



佐藤大輔さん

◎出版社勤務。勤務のない週末だけ新潟市農業サポーターとして農家の手伝いをしている。



受入農家

人も自然も環境も農業もみんなつながっています

どこの農家も人手が足りないのが現状なので本当に助かっています。また、安全・安心、地産地消、食糧自給率問題など、食に対して消費者の関心が非常に高まっている時期でもあります。まずは野菜の本当のおいしさを知ってもらいたいですね。まっすぐ突き進む人生もいいと思います。でもふと周りを見渡した時に、農業風景が目に入ってくるのが新潟です。人も自然も環境も農業も循環していて、どれもつながっています。ライフスタイルに農業を取り入れてみるのもおもしろいですよ。



小林農場 小林 勝さん

長岡市農政課(大地まるごと学事務局) 稲川美沙子さんにお話を聞きました

長岡市「大地まるごと学」でも農業のお手伝いをしてもらえる方を募集しています

お祭りで帰省した際に利用した学生さんもあります
農業の楽しさを多くの人に知ってもらいたい、土と戯れてもらいたい、そんな思いから始めた制度です。初級、中級、上級コースとありますが、まずは、あまり難しく考えず初級コース(1日体験)に申し込んでみてはいかがでしょうか。太陽の下での作業はとっても気持ちがいいし、健康になったという声も聞かれます。若い方からの参加も多く、昨年度、長岡まつりで帰省した際にお手伝いをしていた学生さんもありましたよ。



これらの制度・団体への参加・お問い合わせなど、詳しくは裏面をご覧ください